

科目名 (科目番号)	臨床医学Ⅰ (時間割参照)	教員名	可知 謙治	学科等	保健栄養	必修	履修年次	3
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
				授業形態	講義	オフィスアワー	D302研究室	
授業概要	疾病の成り立ちⅠ・Ⅱで学んだ病態生理・病理学的知識をもとに、①生理機能や尿・血液検体の種類と採取方法、負荷試験など臨床検査の必要性和検査値による病態評価の総合的理解、②類似疾患との鑑別、③複数疾患の合併による病態の変化、③治療方法の基本的な考え方と合併症の予防を学ぶ。また、疾病の治療が日常生活に組み込まれる具体例として、アレルギー性疾患、悪性新生物などを取り上げる。							
目的・目標	目的:「臨床栄養学」や「栄養教育論」を学ぶ前提として、どのような栄養療法が有効なのか理解できるように疾病の病態について十分な知識を持つ。 目標:主要な疾患の病因・病態、臨床症状、検査・診断、治療について理解する。							
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	オリエンテーション 診断のための身体診察(1)	到達目標:問診や身体診察についてその目的や意義がわかる。 学習内容:問診と全身状態の測定を学ぶ。					
	2	診断のための身体診察(2)	到達目標:チアノーゼ、黄疸、発疹などについて病態と原因疾患がわかる。 学習内容:全身症候、その他の症候・病態を学ぶ。					
	3	臨床検査の概要 (1)	到達目標:一般臨床検査、血液学検査、生化学検査についてその目的や意義がわかる。 学習内容:臨床検査の種類と特性を学ぶ。					
	4	臨床検査の概要 (2)	到達目標:生理機能検査、画像検査についてその目的や意義がわかる。 学習内容:臨床検査の種類と特性を学ぶ。					
	5	免疫・アレルギー系疾患 (1)	到達目標:食物アレルギー、アトピー性皮膚炎などについて病因と病態、症状、診断、治療がわかる。 学習内容:アレルギー疾患の病態と治療を学ぶ。					
	6	免疫・アレルギー系疾患 (2)	到達目標:後天性免疫不全症候群 (AIDS) について病因と病態、症状、診断、治療がわかる。 学習内容:後天性免疫不全症候群 (AIDS) の病態と治療を学ぶ。					
	7	免疫・アレルギー系疾患 (3)	到達目標:全身性エリテマトーデスなどについて病因と病態、症状、診断、治療がわかる。 学習内容:膠原病と自己免疫疾患、その類縁疾患の病態と治療を学ぶ。					
	8	感染症	到達目標:感染症の成り立ち、代表的な病原体、発症する疾患、食中毒や性行為感染症の病因と病態、症状、診断、治療がわかる。 学習内容:感染症の代表的な病原体と病態を学ぶ。					
	9	ライフステージと疾患(1)	到達目標:糖尿病、ガラクトース血症について病因と病態、症状、診断、治療がわかる。 学習内容:先天性代謝異常の病態と治療を学ぶ。					
	10	ライフステージと疾患(2)	到達目標:フェニルケトン尿症などについて病因と病態、症状、診断、治療がわかる。 学習内容:先天性代謝異常の病態と治療を学ぶ。					
	11	加齢・生活習慣と疾患(1)	到達目標:肥満、メタボリック症候群について病因と病態、症状、診断、治療がわかる。 学習内容:肥満の病態と治療を学ぶ。					
	12	加齢・生活習慣と疾患(2)	到達目標:子宮内膜症、更年期障害について病因と病態、症状、診断、治療がわかる。 学習内容:産婦人科疾患の病態と治療を学ぶ。					
	13	加齢・生活習慣と疾患(3)	到達目標:フレイルティ、サルコペニアなどの病因と病態、症状、診断、治療についてわかる。 学習内容:高齢者の運動器疾患の病態と治療を学ぶ。					
	14	加齢・生活習慣と疾患(4)	到達目標:炎症、変性、壊死などについて病理学的変化がわかる。 学習内容:加齢や疾患に伴う変化を学ぶ。					
15	加齢・生活習慣と疾患(5)	到達目標:がん遺伝子とがん抑制遺伝子、腫瘍の良悪性、増殖・浸潤・転移・播種がわかる。 学習内容:腫瘍の種類と発がんのメカニズムを学ぶ。						
成績評価の方法・基準	対面時、オンライン時ともに期末試験の成績 (100%) で評価する。							
教科書	栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第3版 2年次購入済			田中明、藤岡由夫編		羊土社		
参考図書	内科学(第12版)			矢崎義雄・小室一成総編集		朝倉書店		
教員からのメッセージ	1年次に履修した解剖生理学、2年次に履修した疾病の成り立ちⅠ・Ⅱと合わせ、ヒトが生まれてから死ぬまでの主な疾患の病態を理解し、治療と予防を学ぶ科目です。疾病の成り立ちⅠ・Ⅱで網羅できなかった内容を中心に、診療ガイドラインの更新にともなう変更内容を取り入れています。病院に勤務した医師がこの授業を担当します。オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスでシラバスの変更を周知します。							